

日韓の高校生が学びあう授業 —デジタル教材朝鮮通信使を用いて—

研究の目的

東アジアにおける平和の実現、維持のために、各国間での歴史認識の共有が必要であることは、かねてより指摘されてきた。特に隣国である韓国と日本については、日韓両国の研究者や学校教員による共同研究が積み重ねられ、両国で使用できる共通教材が作成、出版された。本研究では、これらの研究成果が学校現場で活用され、高校の授業における実践がすすむことを目指している。ここでは、日韓両国の高校生が同じ教室で一緒に歴史を学ぶ授業の可能性を検討し、そのための教材と授業方法の一例を提案する。

授業の題材

高校の日本史の授業では、各時代ごとに韓国との関係を学ぶ。両国間で良好な時期もあれば、暴力や悲劇の時期もあり、どの項目も重要であるが、この授業では日韓の高校生と一緒に学ぶ題材として、江戸時代の朝鮮通信使を取り上げた。安定した国交を維持したこの時代を同じ教室で一緒に学び、その後(豊臣秀吉の侵略、江華島事件以降の日韓関係)については、日韓共通教材を読んで歴史認識の共有を実現した各国の教員が、それぞれの国の教室でしっかりと授業する。そういう形から始めるのが、現段階では現実的ではないかと考えている。

授業の進め方とポイント

デジタル
画像

についてのQ(教師の質問)によって進行し、生徒の主体的な取り組みを促す。
生徒たちは日韓混合のグループ(4人前後)に分かれて活動し、お互いに学びあう。デジタル教材や実物教材を活用して各事項について解説し、視覚的イメージの共有が言葉の壁を越えたコミュニケーションの動機づけとなることを目指す。日韓双方から等距離になる言語としての英語を主として使用する。世界遺産を活用した学習を取り入れ、お互いの文化を理解し尊重する姿勢を養う。

授業の流れ

When?

何時代か?
どんな時代か?

Q1.これは誰でしょう?

朝鮮国王
の肖像画

徳川将軍
の肖像画

Q2.このころの朝鮮、日本はどのような社会でしたか?(お互いにそれぞれの国について説明するように指示する。)

Q3.これは誰でしょう?

雨森芳洲
の肖像画

(朝鮮・対馬・日本の関係、日朝間の交渉担当者について解説する。)

Where?

どこからどこ(どんな場所)まで
旅をしたか?

Q4.これは何(どこ)でしょう?

昌徳宮の
写真
(韓国の世界遺産)

日光の写真
(日本の世界遺産)

(お互いに自分の国の世界遺産について説明するよう指示する。)

Q5.朝鮮通信使はどこからどこまで、どのようなルートで移動しましたか?



How?

どのように旅をしたか?

Q6.これは何の絵でしようか?

通信使の
行列図
(「朝鮮人來朝圖」など)

船に乗る
通信使の絵

Q7.これは何の絵でしようか?

文字を書く通信使の絵
(葛飾北斎「東海道五十三次
由井」など)

Cultural Exchange

今も残る“朝鮮通信使”

Q8.何と書いてありますか?



(頼浦 福善寺対潮樓)



Q9.どこで作られたのでしょうか?なぜ作られたのでしょうか?
(伏見人形・丹波)

Q10.何をしているのでしょうか?



(唐子踊り
・牛窓海遊
文化館にて)

Friendship

人と人の関係・交流

[授業のまとめ]

- ① 授業を振り返り、分かったことや考えたことをワークシートに書きましょう。
- ② 同じグループで一緒に学んだメンバーのワークシートに、お互いにメッセージを書き込みましょう。
- ③ 雨森芳洲が書いた『交隣提醒』の文章を読みましょう。「誠信とは実意ということであって、互いに欺かず、争わず、真文をもって交わること...」

自文化紹介・相互理解

世界遺産(人類共通の価値)・異文化尊重

交流(過去・現在・未来)

授業実践と課題

2012年11月、韓国サンダン高校8名と本校生徒約20名に対して授業する機会を得た。この時の授業は、日本史の時間に朝鮮通信使と一緒に学ぶということで計画したので、日本史の授業で使用しているデジタル教材に世界遺産の画像を加えてアレンジし、プロジェクターでうつして解説するという内容構成であった。生徒への発問を多くするには心掛けたが、発問としては画像つきの講義であり、日韓混合グループでの世界遺産学習は、アイスブレイキングの意味をこめて取り入れたものであった。今回は日韓の高校生が学びあうということを主な目的として参加型の授業を構成した。ここでの問題は言葉の壁である。主要な語句や人名、地名などを漢字とアルファベットで表記することが有効であることは分かっていたが、さらなる工夫を重ねて改良していく必要がある。

授業風景



参考文献(日韓共通教材)

『日韓共通歴史教材 朝鮮通信使-豊臣秀吉の朝鮮侵略から友好へ』明石書店 2005年
『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史 前近代編・下』青木書店 2006年
『日韓歴史共通教材 日韓交流の歴史-先史から現代まで』明石書店 2007年